

令和2年度 学校評価 自己評価結果等

<p>本年度の重点目標</p>	<p>令和4年度から実施される新学習指導要領の趣旨を踏まえてキャリア教育目標を明確にし、その実現に向けたカリキュラムマネジメントの構築を進める。その際、先行実施されている総合的な探究の時間を核として、各教科が協働的に機能できるようにする。また、道徳教育、人権教育についてもカリキュラムの中に組み込めるように配慮する。</p>		
分掌名	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の魅力がよりよく伝わる広報を目指し、オープンスクールを実施する。</li> <li>自主的な防災者としての防災意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校生徒の主体的な活動を前面に出せる場面をオープンスクールに組み込む。</li> <li>防災訓練と連携する形で防災新聞等を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者アンケートでは、生徒の対応が高い評価を得た。今後は、係生徒の人数を増やしたい。</li> <li>被災体験者のインタビューを題材とした防災新聞は反響があった。今後の題材探しが課題である。</li> </ul>
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的基本的な知識の定着を前提とする「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。</li> <li>主体的な学びを通して生徒の自己有用感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の特性を理解しながら、計画的に学習し、主体的に学ぶ姿勢を育てる。</li> <li>「総合的な探究の時間」の目標に照らして、各教科との関連を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習時間調査や生活記録への担任の助言、学年集会での呼びかけによって計画的な学習を促したが、主体的に学ぶ姿勢が十分満足できる状況まで育ったかは疑問。</li> <li>総合的な探究の時間の進め方は今後も検討を要する。特に、教育目標実現のためにどのように生かせるかを考える必要がある。</li> </ul>
<p>保健部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校内の環境を整備し、生徒が安心快適に学校生活を送ることができるようにする。</li> <li>教育相談を充実させ、生徒が安心して学校生活を送り、悩みなどを気軽に相談できる雰囲気をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の清掃による校内美化を美化委員が点検して状況を把握し、改善を指示して環境美化への意識を高める。</li> <li>教育相談委員会とSC等との連携を密にし、個別の支援が必要な生徒には迅速に支援チームを立ち上げる体制を常時整えておく。</li> <li>教育相談室を生徒が気軽に来室できるように整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会による清掃点検は実施できた。その結果をどのようにフィードバックするのが今後の課題。清掃状況が良いクラスを表彰するなどの方法を検討したい。</li> <li>SCが教育相談委員会に出席する回数を増やした結果、SCからより多くの情報や助言を受けることが可能になった。</li> <li>支援チームを立ち上げる事案はなかったがそういった事案が起きた場合に迅速に対応できるように対応方法を整理しておく。</li> </ul>
<p>生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>命の大切さを知り、自分を大切にするとともに、他人を思いやる心を養う。</li> <li>いじめを許さない雰囲気をつくり、同時に支援を必要とする生徒をいち早く察知し、教員間で連携して支援できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談委員会、いじめ・不登校対策委員会の充実を進め、個別の生徒に対する支援チームを立ち上げるなどの対応が、迅速、かつきめ細かくできる体制を常時整えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに関するアンケートでは、重大事態に当たるいじめは認知できなかったが、日常の中で仲間外れにされたり、悪口を言われていると感じている生徒は多数いる。今後は担任を通じて情報収集に努め、人権を尊重した立ち振る舞いを身に付けさせる指導をより充実させる必要がある。</li> </ul>
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育コーディネーター活用事業を活用して学校外とも連携し「開かれた教育課程」の実現を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育目標を明確に設定し、その目標達成につながるように「総合的な探究の時間」を中心としてカリキュラムマネジメントを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に総合的な探究の時間の活動をポートフォリオに蓄積させることはできたが、その時間に得た学びを表現させる指導までには至らなかった。今後は表現のさせ方を検討し、生徒に自らの成長を実感させる機会をつくる必要がある。</li> </ul>
<p>特別活動部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係形成能力と社会形成能力の育成を目指し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。</li> <li>社会の一員としての自己の生き方を探求する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の活性化により、リーダーを育成する。</li> <li>花いっぱい運動、地域美化などボランティア活動を推進する。</li> <li>知立東のつどいなどの行事を通して自主的、実践的な態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で制限はあったが、可能な限り行事は実施することができた。議会については、毎月1回開催することを目標に、学校生活の改善について、生徒が主体的に議論することができた。今後は、生徒が学校生活の中で達成感や充実感を味わう機会をつくりたい。</li> </ul>
<p>図書研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな人間形成を目指すために、教科や学年と連携して図書館利用の推進を図る。</li> <li>職員間の相互理解を促進し、教師の専門性の強化と教育技術向上のために、現職研修や授業参観を活性化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「図書館だより」等により、読書を促し、来館者数や貸し出し冊数の増加を目指す。</li> <li>教科・学年と連携して、読書指導を積極的に実施する。</li> <li>各分掌・教科・学年ごとに研究テーマを設定し、研究を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員に様々な役割を持たせることで、生徒が主体となって行事運営を行うようにする。</li> <li>初任者や経験者研修だけにとどまらず、教職員間で積極的に授業参観等ができるように努める。</li> </ul>
<p>1 学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校における基本的生活習慣の確立を図る。</li> <li>高等学校の学習を始めるために必要な基礎・基本を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をしっかりとさせる。</li> <li>5分前集合を基本とし、時間を守らせる。</li> <li>提出物の期限を守らせ、出し切らせる指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣は概ね身に付けることはできたが、学習習慣の定着が今後の課題である。</li> <li>課題は提出することが目的ではなく、課題に取り組む姿勢が大切であることを理解させたい。</li> </ul>
<p>2 学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対する高い意識をもたせ、学習習慣を身に付けさせる。</li> <li>学校の中核を担う学年であるという意識をもって行動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な進路目標をもたせるためにきめ細かく指導する。</li> <li>日々の学習に対するアドバイスをする。</li> <li>学校行事や部活動に積極的に参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣については、概ね身に付けることができたが、学習時間がなかなか増えていない。日々声をかけ、学習時間を増やしていくことが今後の課題である。</li> <li>少しずつ進路目標を考えるようになってきたが、考えが甘い生徒も多い。引き続き面談などを通してきめ細かく指導をしていきたい。</li> </ul>
<p>3 学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路目標実現に向けて、最後まで努力を続けさせる。</li> <li>学校の中心として先頭に立ち、どう動くべきかを常に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に個別面談を行い、生徒の状況に合わせて、的確な助言をする。</li> <li>学校のリーダーとしてどのように後輩達に指導していくかを考えさせる機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員からこまめに声をかけることで、多くの生徒は努力を継続できている。今後の課題は、より高い進路目標を達成させるための声かけの方法とタイミングである。</li> <li>制約の多い学校祭であったが、よく考えて後輩を指導し、十分に指導力が発揮できた。</li> </ul>
<p>総合評価</p>	<p>進学校としての本校の立ち位置は、地域住民の方、中学校から一定の評価を得ている。これに加えて、高校卒業後に更に力を発揮できる生徒を育成するために、自己肯定感を高める指導を進める必要がある。本校の卒業生が地域で活躍することにより、本校に対する評価がより高められ、そうした卒業生の姿を見せることが、在校生の自己肯定感をより高めることにつながる。地域から信頼される高校に通学する生徒としての誇りを高める指導を継続したい。</p>		